

# タイキシャトル、シーキングザパールが仏GIに挑戦 モーリスドギース賞、 ジャックルマロワ賞速報



## モーリスドギース賞(仏GI) Prix Maurice de Gheest

ドーヴィル競馬場 8月9日 1着賞金50万フラン  
4歳以上 芝1300m 晴・良 12頭

着順	馬番	馬名	調教国	性別	斤量	着差
1	⑧	シーキングザパール	日	牝5	56.5	1:14.7
2	④	ジムアンドトニック	仏	騾5	58	—
3	①	ムシーア	英	牡5	58	—
4	⑦	ダイヒムダイヤモンド	英	牡5	58	—
5	⑤	データイム	英	牡5	58	クビ
6	②	カハル	英	牡5	58	3/4
7	⑥	ケオス	英	牡5	58	—
8	⑨	パドレボンス	仏	牝5	56.5	3/4
9	⑫	グラジア	英	牝4	54.5	2 1/2
10	⑩	ヘイル	英	牡4	56	2 1/2
11	③	トンバ	英	牡5	58	—
12	⑪	ロワジロンド	仏	牡4	56	—

## シーキングザパール

1994年4月16日生 牝5歳 鹿毛

父 Seeking the Gold

母 Page Proof (父 Seattle Slew)

栗東 / 森秀行厩舎

馬主 / 植中昌子氏

生産者 / Lazy Lane Stables Inc. (米国)

通算成績 / 国内 12戦7勝

海外 1戦1勝

総獲得賞金 / J R A 3億7154万3000円

海外 ※50万フラン

主な勝ち鞍 / 98モーリスドギース賞(仏GI)

97N H KマイルC(G I)

97ニュージールランドT 4歳S(G II)

96デイリー杯3歳S(G II)

98シルクロードS(G III)

97シンザン記念(G III)

97アラワーC(G III)



ジムアンドトニック(左端)らを突き放し、ゴールを目指すシーキングザパール

森調教師をはじめ関係者の努力が実って、シーキングザパールは最高の状態でレースに臨むことができた

※ J R A所属馬がその対象となる外国のレースにおいて優秀な成績を取った場合に褒賞金が交付される。シーキングザパールの場合は褒賞金9400万円と特別褒賞金1000万円の合計からモーリスドギース賞の1着賞金50万フラン(約1200万円)を引いた約9200万円がJ R Aから馬主に交付される。またタイキシャトルの場合、褒賞金1億7200万円と特別褒賞金2000万円の合計からジャックルマロワ賞の1着賞金100万フラン(約2400万円)を引いた約1億6800万円がJ R Aから馬主に交付される(シーキングザパールとタイキシャトルの褒賞金に差があるのは、G I競走を2つのランクに分類し、世界的なG Iレースとその他のG Iレースを差別化しているため。ジャックルマロワ賞はAランク、モーリスドギース賞はBランクに定められている)

そのときわたしは、ゴールよりほんの少し手前のラチ沿いに並べられた椅子の上に登って、周りで自分が賭けた馬の番号を叫び続けた。フランスの子どもたちと一緒に大声をあげていた。まだ先頭になつていない。シーキングザパールがポントゲートを飛び出してからすでに1分以上過ぎていくというのに、まだパールは先頭を走っている。ああどうしよう。勝てるかもしれない。そう思った瞬間、わたしの目の前を彼女が駆け抜けた。「ユイット、ユイット!」

周りで見ていたフランスの子どもたちやおじさんが口々に「8だ、8だ」と言いながら、わたしの背中をバシバシ叩いて「ジャポネ、ジャポネ、日本の馬だよ」と祝福してくれる。シーキングザパールがドーヴィル競馬場でG Iモーリスドギース賞を勝つたのだ。わたしは「ありがと?」と笑いながら戻ってくる馬に向かって走り出した。日本の競馬史上にキラキラと輝く黄金週間が、このとき始まった。この日のドーヴィルは快晴。気温は40度近くまで上がって、50年ぶりとも言われる猛暑に襲われていた。

7月21日に日本を発つたシーキングザパールは、ニューマーケットで調教を積み、船でフランスに乗り込んできた。前日にはスタートリリングをすませ、レース前は誰よりも早くパドックに出て、他の馬より一足早く本馬場に入場した。「最高の馬場やね」

じつとパールの姿をみつめていた森調教師がこともなげに言った。この人はどこに行っても同じだと頼もしく思う。ぶつくりと、少し太いかなと思うくらいに感じに仕上がったパールは、いつもより静かに見えた。人気はなかった。単勝オッズは10・4倍。12頭立ての5番人気と、突然やって来た日本の牝馬の評価は低い。レースは直線の1330メートル。フランス入りしてから絶対調の武豊騎手が乗るとはいえ、追い込み脚質だけに不安は多い。もう何度も日本馬の海外遠征につき合っている。勝つて、と思う一方で、厩舎初のヨーロッパ遠征だもの、それほど甘くはないよなあ、とも思う複雑な心境だった。それなのに、3番枠からポントゲートスタートを決めたパールを武豊騎手は無理に抑えず、後続の追従も断固許さずコースレコードの1分14秒7で勝たせたのだ。ほんとにあなは天才よ! そう叫びながら馬道に飛んでいくと、戻ってきたパールのびつくりとしたような美しい顔と、鉄腕アトムのように両腕を挙げてガッツポーズを繰り返すジョッキーのニコニコ顔がそこにあった。

海外初のG I制覇。一夜明けるとこのニュースは日本だけでなく、フランス、イギリスの競馬サークルの話題も独占することになった。シフォンのドレスに身を包んだオーナーの令嬢植中昌子さんの、表彰式で見せた可憐な笑顔が、最もフランスで有名な競馬新聞「パリ・チュルフ」の一面を飾り、武豊ジョッキーも紙面を賑わせて、さらにシヤンテイでレースを待つ日本の最強マイラー・タイキシャトルへの取材も激化。今まで全く考えられ

## 輝ける週末



英ニューマーケットで調整し、海路でドーヴィル入りしたシーキングザパールが海外G I初制覇を達成

今井寿恵 =写真  
photograph by Hisae Imai  
高橋直子 =文  
text by Naoko Takahashi

シーキングザパール、タイキシャトルが相次いでフランスのG Iレースに挑戦し、それぞれ日本競馬史に残る1勝を収めた。シーキングザパールは8月9日、パリ北西部ノルマンディー地方にある避暑地ドーヴィルで行われたモーリスドギース賞(ドーヴィル競馬場、芝直線1300m)に出走。武豊騎手が騎乗して先行策から粘り切り、日本調教馬として初めて、海外国際G I優勝の偉業を成し遂げた。続いて8月16日、フランス最大のマイル戦ジャックルマロワ賞(ドーヴィル競馬場、芝直線1600m)には岡部幸雄騎手騎乗のタイキシャトルが出走。単勝1.3倍の圧倒的な人気に応じて、2、3番手から堂々と抜け出し、日本馬の実力を欧州の競馬ファンにアピールしたのだ。



ジャックルマロワ賞(IG I) Prix Jacques le Marois

ドーヴィル競馬場 8月16日 | 着賞金100万フラン  
4歳以上 芝1600m 晴・良 8頭

着順	馬番	馬名	調教国	性別	年齢	斤量	着差
1	⑥	タイキシャトル	日	牡	5	59	1:37.4
2	④	アマンガメン	日	英	5	59	1/2
3	②	ケーブクロス	日	英	5	59	アタマ
4	⑨	ミスパーパー	日	牝	4	54.5	1
5	①	ワキナオ	日	独	6	59	1 1/2
6	⑦	レンドアハンド	日	英	4	56	1 1/2
7	⑤	ナイトプレイヤー	日	英	5	59	5
8	③	マラソン	日	英	5	59	アタマ
	⑧	ザライーカ	日	牝	4	54.5	出走取消

逃げるケーブクロス(青帽)、追うアマンガメン(橙青縞帽)と競い合うタイキシャトル

タイキシャトル

1994年3月23日生 牡5歳 栗毛

父 Devil's Bag  
母 Welsh Muffin (父 Caerleon)  
美浦・藤沢和雄厩舎  
馬主 / (有)大樹ファーム  
生産者 / Taiki Farm (米国)  
通算成績 / 国内 10戦9勝  
海外 1戦1勝  
総獲得賞金 / JRA 4億9395万7000円  
海外 ※100万フラン  
主な勝ち鞍 / 98ジャックルマロワ賞(IG I)  
98安田記念(G I)  
97マイルCS(G I)  
97スプリンターズS(G I)  
98京王杯S C(G II)  
97スワンS(G II)  
97ユニコーンS(G III)



ついに悲願の海外G I初制覇を成し遂げた赤沢芳樹オーナー、藤沢調教師、岡部幸雄騎手



日本競馬史上最強マイラーの実力を、欧州の競馬関係者に見せつけたタイキシャトル

8月のドーヴィルで起こった2つの事件が、日本の競馬史上どのくらい大きな意味を持つかを考えると、わたしは今でも興奮して鳥肌がたつ。ここまで来るのに、どれだけ多くの馬が涙とともに破れ去っていったか、そしてどれほど多くの関係者が地道な努力をしてきたか。それらはすべて最後の晴れ舞台のあの栄光のゴールのための努力だった。この大きな勝利は、ジョッキーや調教師だけでなく、舞台裏を支えるすべての人々のものである。しかし最終的な栄誉はオーナーとその脚でゴールを駆け抜けた馬自身に与えられるべきだろう。おめでとうシーキングザパール。そしてありがとう、タイキシャトル。夢はかなったのだ。

世界一追えるジョッキークイーン、ミック・キネンとフランキー・デットーリが必死に追う。シャトルにムチが一発飛ば。またビュンと突き放す。強い！ シャトルは絶対に負けるつもりはないのだ。

追いつけるアマンガメンに馬身差をつけてタイキシャトルはジャックルマロワ賞を制した。たった馬身。だがそれは永久に詰まることのない大差だった。

それから後のことは、興奮しすぎてよく覚えていない。誰もかれもが祝福し合い、抱き合い、涙ぐんだ。素晴らしいレースだった。

合図に応じてシャトルがビュンと伸びた。世界一追えるジョッキークイーン、ミック・キネンとフランキー・デットーリが必死に追う。シャトルにムチが一発飛ば。またビュンと突き放す。強い！ シャトルは絶対に負けるつもりはないのだ。

追いつけるアマンガメンに馬身差をつけてタイキシャトルはジャックルマロワ賞を制した。たった馬身。だがそれは永久に詰まることのない大差だった。

それから後のことは、興奮しすぎてよく覚えていない。誰もかれもが祝福し合い、抱き合い、涙ぐんだ。素晴らしいレースだった。

8月16日の朝、ドーヴィルは濃い霧に包まれた。早朝シャントニーを出発したシャトルは、霧の中、競馬場に入った。昼近くになって霧が晴れると、1週間前とはちがってさわやかな避暑地の晴天。話題の馬を一目見ようとやって来たバカンスの客と、日本から詰めかけたファンやプレスでごったがえす競馬場のパドックは熱気に包まれる。

タイキシャトルはパドックの入口で「何をそんなに騒いでるんだよ」とでもいうように一歩いなないで、人々の目を釘づけにした。その瞬間をみながら、堂々と本馬場に入場した。他の出走馬と比べても見劣りすることは全くない。馬番は6。圧倒的1番人気。

スタートはよかった。先頭にたつかと思われたがデットーリ騎手がケーブクロスを先行

なかつた方向へと事態は進んでいった。仏英のジャーナリストたちは、タイキシャトルを次の日曜日のG I ジャックルマロワ賞の本命として連日記事を掲載。毎朝取材を続けていた日本の記者たちの間にさえ「負けられない」という雰囲気が出た。朝の冷たい空気に、シャトルの豊かな表情を見ている間だけは「負けるわけがない」と思った。

それでも出走メンバーが発表になると気持ちは揺れてくる。8頭立てと少頭数とはいえず、サセックスステークスの覇者アマンガメン、ロッキンジステークス勝ちのケーブクロス、2000ギニー2着のレンドアハンド、ドイツ最強馬ワキナオなど実力馬が顔を揃えていたからである。激しいレースになるだろう。

しかし森厩舎同様、海外遠征に独自のノウハウを持つ藤沢厩舎の現地チームは、これまで何事にも一向に動じないタイキシャトルを真ん中に、落ち着き払ったものだった。報道陣を一瞥し、カメラのレンズに追いかけても全然へっちゃらな金髪のシャトルは、シャントニーの森で調教されているどの馬よりもすばらしい馬体をしてた。朝の冷たい空気に、シャトルの豊かな表情を見ている間だけは「負けるわけがない」と思った。